雨の中市民など2,000人が訓練に参加

平成30年度　白石市総合防災訓練

6月10日、平成30年度白石市総合防災訓練を市内の指定避難所などで実施しました。「午前8時、白石市内で震度6弱の地震を観測した」という想定のもと、各自主防災組織や各自治会が独自にシナリオを作成し、「一時避難・安否確認訓練」や「避難所開設・運営訓練」、「初期消火訓練」などさまざまな訓練を行いました。

市では、防災メールにより直ちに市職員を非常招集し、午前8時25分に災害対策本部を設置。防災無線で各地区公民館などから施設被害状況や職員の参集状況などが報告されました。

各自主防災組織や各自治会では、一時避難場所に避難した段階で、平成27年度に全戸配布した「安否確認フラッグ」を活用して地域住民の安否確認を行い、その後、指定避難所への避難や被害状況の調査などを開始。市職員は「初動マニュアル」に基づき、情報収集や伝達、避難経路確保、各自主防災組織・各自治会と連携して避難所の開設・運営を行いました。

今回の訓練には、各指定避難所などに約2,000人の市民などが参加。避難所使用スペースの区割りや発電機の設置、避難者受付場所の設置、施設の安全確認や簡易トイレの設置、災害用無料公衆電話の設置訓練、災害時伝言ダイヤル（171）の使用訓練、食料・物資の保管や配布などの訓練が行われました。

また、市民の皆さんによる訓練に加え、陸上自衛隊による物資輸送訓練や断水時給水訓練、仙南第一LPガス協議会による炊き出し訓練、白石警察署による防犯講話、消防署と消防団による初期消火訓練・救急救命訓練などが行われました。さらには、東日本ICT推進協議会に協力を得てドローンを使った災害映像伝達訓練を初めて実施しました。

今後もこうした訓練を通じ、地域の安全・安心を守るべく、災害に強いまちづくりを推進していきます。

白石市長
山田　裕一

本年度もすべての地区において、自主防災組織や自治会、小中学校などの指定避難所の施設管理者、そして市職員が連携した、指定避難所の開設・運営訓練を実施いたしました。あらためて市民の皆さんの防災への意識、関心の高さが感じられました。今回の防災訓練の内容を検証し、今後の防災行政に生かしていくとともに、来年度の訓練をさらによりよいものとするべく努めてまいります。

1_陸上自衛隊による物資輸送訓練では水や非常食などが白石中学校の避難所へ届けられた　2_災害時に福祉車両提供の協定を市と締結した株式会社大正自動車により行われた体験訓練　3_福岡中学校体育館で行われたドローンを使った災害映像伝達訓練　4_市防災センターに設置された災害対策本部の様子　5_指定避難所で受け付けを済ませる参加者たち　6_大平公民館で参加者に救急救命の方法を教える消防署員　7・8_ビニール袋に米を入れプロパンガスで沸かしたお湯でご飯を炊く方法を実践する参加者と炊きあがったご飯　9_段ボールベッドを組み立てて実際に寝心地を確かめる参加者　10_女性消防団員と一緒に消火訓練をする子どもたち　11_深谷小学校では、上下水道事業所の給水車両による給水訓練が行われた